

平成 19 年病虫害の発生と防除

農林水産省 消費・安全局植物防疫課

I 病虫害発生概况

昨年の病虫害の発生を年頭から振り返ってみると、記録的な暖冬および春先 3 月の気温が高く推移したことから、いちごなどの施設野菜や茶のハダニ類の発生が多かった。また、果樹では、病原菌類およびカメムシ類などの越冬量増加並びに病虫害の早期発生が懸念されたが、越冬量は平年並で、病虫害の発生時期もほぼ平年並であった。4 月から 6 月にかけては小雨の状態が続き、目立った病虫害の発生動向は見られなかった。7 月に入ると、梅雨前線の影響により、低温・多雨・寡照となり、水稻のいもち病発生が懸念されたが、8 月以降は全国的に気象が好転、高温となったため、いもち病の発生は抑制されたが、一方で水稻のコブノメイガおよびトビイロウンカ並びに大豆・野菜類・花き類のハスモンヨトウの発生が多くなった。

これまでに公表された気象庁資料、各都道府県の発生予察情報および各種統計報告を基に、気象経過、主要病虫害の発生概況および植物防疫事業概況などを取りまとめたので、今後の病虫害防除対策の検討資料として紹介する。

II 平成 19 年の天候経過の概況

本年の天候は、冬期間（平成 18 年 12 月～平成 19 年 2 月）の天候は、全般に寒気の影響は少なく、冬型の気圧配置は長続きしなかった。このため全国的に気温が高く経過し、記録的な暖冬となった。東日本と西日本の地域平均気温は、昭和 21, 22 年の冬以降で最も高かった（図-1）。また、北日本、東日本、西日本日本海側の降雪量は、昭和 36, 37 年の冬以降で最も少なかった。本州の日本海側では平年に比べ晴れの日が多かったため、日照時間が多く、東日本日本海側では日照時間が昭和 36, 37 年の冬以降で最も多かった。また、12 月下旬と 1 月上旬に、東日本から北日本の太平洋沿岸を、低気圧が急激に発達しながら北上したため、大雨や暴風により大きな被害が発生した。これらの低気圧の影響で北・東

日本の太平洋側で多雨となった。

春期間（3～5 月）の天候は、10～20 日程度の周期で寒気が流れ込み、全国的に気温の変動が大きかった。4 月は西日本を除いて 1 年ぶりの低温となったが、3 月初めと 3 月下旬の高温が著しく、春の平均気温は東・西日本で高く、北日本と南西諸島で平年並となった。3 月中旬に冬型の気圧配置の影響を受け、その後も短い周期で低気圧が通過した北日本では、平年と比べて曇りや雨または雪の日が多く、日照時間は日本海側を中心に少なかった。また、3 月から 4 月にかけて前線が停滞しやすかった南西諸島でも、平年より日照時間は少なかった。一方、移動性高気圧が東シナ海から本州の南海上を通過することが多かったため、西日本から東日本太平洋側にかけては平年と比べて晴れの日が多く、日照時間が多かった。また、西日本では、低気圧の影響が小さく、降水量はかなり少なかった。4 月から 5 月にかけては、たびたび上空を寒気が通過したため、東日本を中心に各地で落雷や突風、降雹による被害も発生した。

夏期間（6～8 月）の天候は、平均気温は全国で高温となったものの、月ごとの変動が大きかった。6 月は、中旬まで移動性高気圧に覆われて晴れる日が多かったことから、各地で梅雨入りが遅れ、南西諸島など一部の地方を除き気温が高く、降水量が少なく、また日照時間が多くなった。7 月に入ると一転して本州付近に梅雨前線が停滞したため、曇りや雨の日が続き、台風第 4 号の影響も大きかった東・西日本では降水量が多くなった。大陸からの寒気が日本海に流れ込み、北・東・西日本では気温が低くなったが、オホーツク海高気圧の出現はほとんどなく顕著な低温とはならなかった。8 月は、初め北日本と西日本で一時ぐずついたものの、その後は太平洋高気圧が本州付近を覆い、各地で猛暑日になるなど晴れて暑い日が続く、北・東・西日本では一部の地方を除き、気温が高く、日照時間が多くなり、太平洋側では降水量が少なくなった。南西諸島では、6 月に活発な梅雨前線の影響で降水量が多かった。7 月から 8 月上旬までは太平洋高気圧に覆われ、晴れて暑い日が続いたが、台風や湿った気流の影響で 7 月中旬と 8 月中旬には大雨となった。

9 月は、全国的に気温がかなり高くなり、特に西日本では昭和 21 年以降、9 月としては最も高く、全国で月

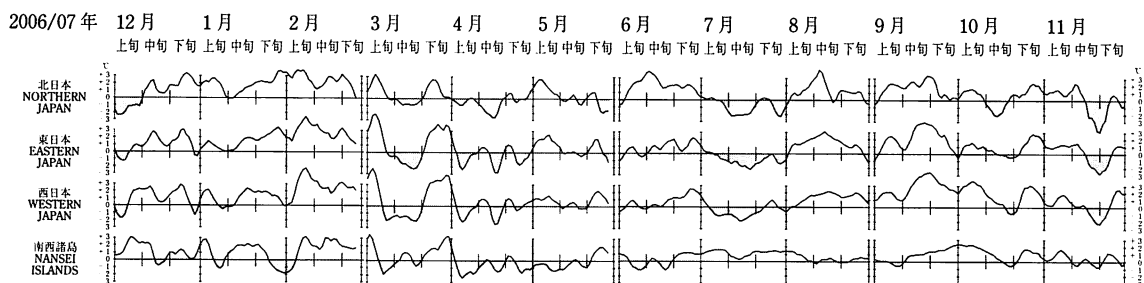


図-1 地域別平均気温平年差の経緯（5日移動平均）：気象庁報道発表資料から抜粋

平均気温の最高値を更新するところがあった。降水量は、台風などの影響により、北日本、沖縄・奄美および関東甲信地方では大雨となったが、一方、東日本日本海側と西日本では降水量がかなり少なかった。日照時間は、東日本日本海側と西日本で多く、北海道と沖縄・奄美で少なかった。

10月、気温は全国的に高く、西日本と沖縄・奄美でかなり高くなり、九州地方を中心に月平均気温の最高値を更新するところがあった。降水量は、前線や台風の影響を受けた北・東日本の太平洋側と西日本日本海側で平年並となったほかは、少なかった。

Ⅲ 作物別の病害虫発生状況の概況

1 水稻病害虫

病害では、梅雨入りまで多くの地域で好天に恵まれたため、いもち病の発生は平年並程度と予想されていたが、6月中・下旬から低温・多雨・寡照となり、感染に好適な気象条件が出現し、7月に入っても同様の気象状態が続いたことから、7月上旬から早期防除の呼びかけが行われた。その後も病斑が上位葉へ進展した地域では、葉いもち病斑の発生が多くなり、7月上旬から下旬にかけて東北、甲信、東海および中国の4県から注意報が発表され、防除の徹底が呼びかけられた。8月に入ると一転して好天が続き、高温となったため病勢は抑制された。その後も天候による影響がなかったことから、全国的に発生は抑えられ、いもち病に関する注意報は7件（前年22件）発表された。なお、九州では紋枯病の発生が多かった。

害虫では、トラップによるウンカ類の飛来調査で、トビイロウンカが佐賀県で平年よりやや早い6月13日に、続いて、宮崎県で27日早い6月15日に、また、セジロウンカが長崎県では平年並の5月5日に初めて飛来確認があった。その後、梅雨前線の活動が活発になった6月下旬から7月上旬にかけて、北陸、北関東までの広範囲で飛来が確認され、8月の高温と相まって、8月中旬に

は山口県、8月下旬には宮崎県から第二世代に対する防除を徹底するため警報が発令された。また、西日本では9月の気温が記録的に高かったことから、10月上旬までに注意報が14件発表された。なお、トビイロウンカの発生が多い地域では、8月下旬から9月上旬にかけ、一部圃場で坪枯れが見られた。

一方、後期害虫である斑点米カメムシ類については、早期水稻の出穂期に当たる6月上旬ごろから水田周辺雑草地における生息が多くなり、6月下旬から注意報が発表され始め、8月上旬までの間に注意報が7府県から延べ9件発表された。

なお、平成19年10月29日に農林水産省統計情報部から公表された10月15日現在の水稻の作柄によれば、本年は、登熟期間の天候が、全体的に高温・少雨傾向で推移している中で、関東以西の登熟はやや抑制されているものの、秋雨前線や台風の被害が少ないことから、全国では、作況指数99の10a当たり収量522kgが見込まれている。

また、農業地域別の作況指数は、東北が101、北陸、近畿および四国が99、北海道、関東・東山および東海が98、中国が96、九州が95、沖縄が91と見込まれている。

2 その他普通作物病害虫

麦では、赤かび病の発生が懸念された。これは昨年の多発生に加え、春先の気温が高い状況であったことから、早期の発生および発生量の増加が予想されたため、3月から4月の予報などにおいて適期の防除が呼びかけられた。その結果、適期防除が実施され、赤かび病の発生は平年並以下に抑えられ、注意報の発表はなかった。

大豆では、8月以降、気温が高い状況が続き、害虫の発生が助長されたため、大豆のほか、野菜類、花き類に害を及ぼすハスモンヨトウに発生が多く、8月末から10月中旬にかけ、注意報が10件発表された。このほか、ウコンノメイガについて注意報が1件発表された。

表-1 病害虫発生・防除状況 (平成 19 年 10 月 1 日現在: 12 月 13 日現在の集計結果)

(単位: 千 ha, %)

病害虫名	概 評	発生面積 (前年比)	延べ防除 面積 (前年比)				
(イネ)				ナシヒメシンクイ	東北、関東の一部で多い、中国でやや多い、九州の一部でやや多い～多い。	1 (136)	59 (107)
葉いもち	関東、東海の一部でやや多い、他平年並以下。	322 (80)	1,270 (146)	ハダニ類	東北の一部でやや多い、関東の一部でやや多い～多い、九州の一部で多い。	5 (100)	40 (92)
穂いもち	関東、東海の一部でやや多い、他平年並以下。	228 (114)	1,414 (115)	カメムシ類		1 (20)	21 (77)
紋枯病	東北の一部でやや多い～多い、関東、九州の一部でやや多い。	608 (121)	781 (128)	アブラムシ類	東北、北陸、四国、九州の一部で多い。	8 (112)	41 (110)
白葉枯病	九州の一部でやや多い。	19 (134)	87 (157)	(モモ)			
ばか苗病	東北の一部でやや多い～多い。	12 (105)	1,041 (120)	せん孔細菌病	東北で多い、関東、北陸でやや多い。	3 (101)	40 (104)
もみ枯細菌病		32 (105)	117 (194)	灰星病		1 (108)	36 (92)
縮葉枯病	九州でやや多い～多い。	47 (275)	0 —	(ブドウ)			
稲こうじ病		66 (78)	71 (191)	晩腐病	東海、北陸、近畿、中国の一部でやや多い。	2 (94)	46 (104)
ニカメイガ	近畿、中国、四国の一部でやや多い、九州でやや多い～多い。	123 (131)	688 (130)	べと病	東北、関東、中国の一部でやや多い、北陸、九州でやや多い～多い。	5 (138)	60 (113)
セジロウンカ	近畿、中国、四国の一部でやや多い、九州で多い。	738 (121)	1,212 (122)	灰色かび病		1 (97)	31 (120)
トビイロウンカ	近畿、中国、四国の一部でやや多い、九州で多い。	207 (247)	918 (139)	(カキ)			
ヒメトビウンカ	東海の一部で多い、中国、四国の一部でやや多い～多い、九州の一部でやや多い～多い。	541 (103)	1,206 (123)	うどんこ病	関東、北陸、近畿、中国、四国の一部でやや多い。	8 (149)	49 (128)
ツマグロヨコバイ		525 (122)	982 (134)	落葉病類	関東の一部で多い。	5 (88)	48 (116)
イネハモグリバエ	東北の一部で多い。	3 (123)	5 (68)	カメムシ類	四国でやや多い～多い。	3 (52)	27 (101)
イネトロオイムシ	関東の一部でやや多い～多い。	196 (133)	583 (103)	カキクダアザミウマ	関東の一部で多い。	2 (94)	23 (121)
斑点米カメムシ類	東北の一部でやや多い～多い、関東、九州の一部でやや多い、四国の一部で多い。	457 (114)	1,437 (104)	(チャ)			
アワヨトウ		6 (154)	69 (124)	炭そ病	関東の一部でやや多い～多い。	29 (127)	84 (124)
コブノメイガ	東北、北陸の一部でやや多い～多い、近畿の一部でやや多い、中国、九州で多い。	433 (189)	493 (168)	チャノコカクモンハマキ	関東、九州の一部で多い。	15 (106)	51 (126)
イネミズゾウムシ		672 (125)	848 (108)	カンザワハダニ	関東、近畿の一部でやや多い、九州の一部でやや多い～多い。	32 (173)	100 (158)
(ムギ類)				(キュウリ)			
さび病類	北陸、九州の一部で多い	38 (120)	203 (94)	べと病	東北の一部でやや多い～多い、北陸の一部でやや多い～多い。	5 (106)	36 (107)
うどんこ病	東北、関東の一部で多い。	50 (86)	259 (97)	うどんこ病		2 (39)	14 (42)
赤かび病		24 (33)	501 (97)	(スイカ)			
雪腐病類		32 (75)	99 (109)	つる枯病	関東、北陸の一部でやや多い。	3 (82)	28 (119)
(ジャガイモ)				(ハクサイ)			
疫病	九州の一部で多い。	17 (71)	390 (97)	軟腐病	夏作：関東の一部でやや多い、秋冬作：東北、北陸、中国の一部でやや多い。	1 (94)	21 (108)
(ダイズ)				白斑病	秋冬作：関東の一部、中国でやや多い。	1 (65)	15 (121)
紫斑病		8 (96)	69 (102)	(キャベツ)			
べと病		45 (105)	0 —	黒腐病		1 (115)	19 (100)
葉焼病	関東、九州の一部で多い。	18 (103)	1 (0)	コナガ	春作および秋冬作：関東の一部でやや多い。	10 (196)	54 (131)
アブラムシ類	東北の一部で多い。	26 (76)	48 (104)	(タマネギ)			
ハスモンヨトウ	東北、九州の一部で多い、関東の一部でやや多い～多い。	40 (143)	89 (135)	べと病	近畿の一部でやや多い～多い、中国の一部でやや多い。	1 (199)	15 (165)
ハダニ類	北陸の一部でやや多い～多い。	11 (73)	0 (185)	(野菜共通)			
カメムシ類	北陸の一部で多い、中国、四国の一部でやや多い。九州の一部でやや多い～多い。	34 (161)	74 (100)	疫病		1 (117)	24 (264)
(カンキツ類)				灰色かび病	関東のトマトでやや多い～多い。	6 (137)	60 (236)
そうか病	関東の一部で多い。	9 (141)	70 (137)	アブラムシ類		23 (115)	172 (249)
黒点病	九州の一部で多い。	50 (118)	274 (168)	ハダニ類	関東のナスでやや多い、イチゴでやや多い～多い。	11 (119)	56 (136)
かいよう病	九州で多い。	21 (126)	81 (131)	ハスモンヨトウ	関東でやや多い～多い。	6 (150)	31 (433)
ヤノネカイガラムシ		4 (184)	76 (161)	ヨトウガ	関東のハクサイでやや多い、東北のキャベツで多い。	5 (181)	55 (524)
ミカンハダニ	九州の一部で多い。	44 (149)	180 (147)	(キク)			
カメムシ類		3 (21)	22 (41)	白さび病	関東、北陸の一部でやや多い、九州の一部で多い。	1 (142)	8 (130)
(リンゴ)				アザミウマ類	東北の一部で多い、甲信の一部でやや多い。	1 (120)	8 (128)
モニリア病	東北の一部でやや多い。	1 (336)	54 (738)	アブラムシ類	近畿の一部でやや多い、九州の一部で多い。	1 (100)	5 (104)
斑点落葉病	東北の一部でやや多い。	11 (147)	295 (228)				
黒星病	東北の一部でやや多い。	2 (1,084)	231 (267)				
腐らん病	東北の一部でやや多い～多い。	7 (179)	59 (176)				
ハマキムシ類		2 (103)	7 (11)				
ハダニ類	北海道でやや多い、東北でやや多い～多い。	11 (104)	122 (210)				
(ナシ)							
黒斑病	東北でやや多い。	2 (11)	42 (106)				
黒星病	東北、関東、北陸の一部でやや多い～多い。	5 (94)	148 (104)				

表-2 平成 19 年発生予察情報（警報・注意報・特殊報）の発表状況

(1) 警報・注意報（注：数字は発表年月日，斜体アンダーラインは警報）

(11 月 30 日現在)

① イネ		葉いもち	穂いもち	いもち病	斑点米カメムシ類	コブノメイガ	その他の病害虫
北海道							
東北	青森	7/4, 7/13			7/9, 8/6		
	岩手 宮城 秋田 山形 福島						
関東	茨城	7/19	8/2	7/26			フタオビコヤガ：8/13
	埼玉 群馬 栃木 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 静岡						
北陸	新潟 富山 石川 福井				7/11		
東海	岐阜 愛知 三重	7/19					縞葉枯病：6/14
近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山				8/2	7/25	トビイロウンカ：10/2 縞葉枯病：4/24
中国四国	鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知		7/18		7/12 6/29, 7/13	8/3 7/30 8/2	トビイロウンカ：9/11 トビイロウンカ：9/10 トビイロウンカ：7/30, <u>8/16</u> トビイロウンカ：8/21
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島				6/25	8/1 7/6 7/27 7/30 8/3 8/1	トビイロウンカ：9/6 トビイロウンカ：8/30 トビイロウンカ：8/16, 9/3 トビイロウンカ：8/23 トビイロウンカ：9/10 縞葉枯病：6/14, トビイロウンカ：8/3, <u>8/31</u> トビイロウンカ：8/9, 9/12
沖縄							

(11 月 30 日現在)

②畑作 (イネを除く)		ハスモンヨトウ	その他	⑤花き類	ハスモンヨトウ	その他
北 海 道						
東 北	青 森					
	岩 手					
	宮 城					
	秋 田					
	山 形					
	福 島					
関 東	茨 城	8/31 (ダイズ, ソバ)			8/31 (花き共通)	
	栃 木	9/25 (ダイズ)				
	群 馬	9/20 (ダイズ)				
	埼 玉					
	千 葉				10/11 (花き共通)	
	東 京					ウイルス病：7/11 (花き共通)
	神 奈 川					
	山 梨					
	長 野					
	静 岡					
北 陸	新 潟					
	富 山					
	石 川					
	福 井					
東 海	岐 阜					
	愛 知					
	三 重					
近 畿	滋 賀					
	京 都					
	大 阪					
	兵 庫					
	奈 良					
	和 歌 山					
中 国 四 国	鳥 取					
	島 根					
	岡 山					
	広 島					
	山 口					
	徳 島					
	香 川					
	愛 媛					
	高 知	10/2 (ダイズ, 飼料 作物等)				ネギアザミウマ：4/26 (花き共通)
九 州	福 佐	9/25 (ダイズ)			9/26 (花き共通)	
	岡 賀	9/26 (ダイズ)				
	長 崎	9/5 (ダイズ)			9/5 (花き共通)	オオタバコガ：10/15 (花き共通)
	熊 本					
	大 分					
	宮 崎					
	鹿 児 島	10/2 (ダイズ)				
沖 縄						

(11 月 30 日現在)

③果樹 (茶を含む)		果樹カメムシ類	その他
北 海 道			
東 北	青 森		腐らん病：6/11 (リンゴ), ハダニ類：7/27 (リンゴ)
	岩 手		
	宮 城		せん孔細菌病：5/31・9/13 (モモ), 腐らん病：6/11 (リンゴ), ナシシンクイタマバエ：7/26 (ナシ)
	秋 田		
	山 形		
	福 島		
関 東	茨 城		カンザワハダニ：3/27 (茶)
	栃 木		
	群 馬		
	埼 玉		
	千 葉		
	東 京		
	神奈川		
	山 梨		
	長 野		クワゴマダラヒトリ：4/19 (カンキツ, キウイフルーツ)
	静 岡		
北 陸	新 潟		クワシロカイガラムシ：7/5 (茶)
	富 山		
	石 川		
	福 井		
東 海	岐 阜		
	愛 知		
近 畿	滋 賀		カンザワハダニ：3/1 (茶)
	京 都		
	大 阪		
	兵 庫		
	和歌山		
中 国 四 国	鳥 取	5/18 (果樹全般)	ネギアザミウマ：4/26 (ハウスミカン)
	島 根		
	岡 山		
	広 島		
	山 口		
	徳 島		
	香 川		
	愛 媛		
	高 知		
九 州	福 岡		カンザワハダニ：2/27 (茶), 黒星病：4/27 (ナシ), かいよう病：7/12 (カンキツ類)
	佐 賀		
	熊 本		
	大 分		
	宮 崎		
	鹿 児 島		
沖 縄			

(11 月 30 日現在)

④野菜		ハスモンヨトウ	その他
北 海 道			コナガ：6/15 (アブラナ科)
東 北	青 森		春腐病：6/6 (ニンニク), コナガ：6/13 (キャベツ)
	岩 手		コナガ：6/6 (キャベツ)
東 北	宮 城		コナガ：5/29 (キャベツ)
	秋 田		
東 北	山 形		
	福 島		
関 東	茨 城	8/31 (野菜共通)	
	栃 木	9/25 (野菜共通)	
関 東	群 馬	9/20 (野菜共通)	トマト黄化葉巻病：8/3 (トマト)
	埼 玉		ハダニ類：1/24・10/30 (イチゴ)
関 東	千 葉		ウイルス病：7/11 (果菜類)
	東 京	10/11 (野菜共通)	ネギアザミウマ：11/6 (ネギ, タマネギ, ラッキョウ)
関 東	神 奈 川		
	山 梨		
関 東	長 野		
	静 岡		
北 陸	新 潟		べと病：7/12 (ネギ), 炭疽病：7/12 (スイカ)
	富 山		
北 陸	石 川		
	福 井		
東 海	岐 阜		ハダニ類：1/31 (イチゴ), タバココナジラミ類：8/23 (トマト), トマト黄化葉巻病：8/23 (トマト), 灰色かび病：9/20 (トマト)
	愛 知		すすかび病：2/7 (ナス)
東 海	三 重		ハダニ類：1/19 (イチゴ)
近 畿	滋 賀		すすかび病：3/29 (ナス), ミナミキイロアザミウマ：4/25 (ナス)
	京 都		べと病：2/8 (ホウレンソウ)
近 畿	大 阪		白色疫病：2/14 (タマネギ), べと病：4/26 (タマネギ)
	兵 庫		
近 畿	奈 良		
	和 歌 山		
中 国 四 国	鳥 取		
	島 根		
中 国 四 国	岡 山		
	広 島	10/5 (野菜共通)	シロイチモジヨトウ：8/31 (ネギ)
中 国 四 国	山 口		灰色かび病：2/1 (レタス), ネギアザミウマ：4/26 (野菜共通), 炭疽病：8/31 (イチゴ)
	徳 島		白色疫病：2/8 (タマネギ)
中 国 四 国	香 川		タバココナジラミ：10/3 (ナス, ピーマン, シシトウ, トマト), ミナミキイロアザミウマ：11/19 (野菜共通)
	愛 媛	10/2 (野菜共通)	
中 国 四 国	高 知		
九 州	福 岡	9/25 (野菜共通)	ハダニ類：1/15 (イチゴ), 炭疽病：8/1 (イチゴ)
	佐 賀	9/26 (野菜共通)	うどんこ病：9/6 (イチゴ), ハダニ類：9/6 (イチゴ)
九 州	長 崎		ハダニ類：2/14 (イチゴ), オオタバコガ：10/15 (野菜共通)
	熊 本	9/5 (野菜共通)	ハダニ類：2/2・9/10 (イチゴ)
九 州	大 分		さび病：4/1 (ネギ類), ハダニ類：4/1 (イチゴ), うどんこ病：7/30 (野菜共通)
	宮 崎		タバココナジラミ類：3/23・10/25 (トマト), ハダニ類：10/25 (イチゴ), 黒枯病：11/27 (ピーマン),
九 州	鹿 児 島	10/2 (野菜共通)	ミナミキイロアザミウマ：11/27 (ピーマン), 黄化えそ病：11/27 (メロン, スイカ)
			ハダニ類：1/10・8/31 (イチゴ), 炭疽病：4/10 (イチゴ), アザミウマ：10/29 (ピーマン), タバココナジラミ：10/29 (果菜類)
沖 縄			トマト黄化葉巻病：2/1 (トマト, ミニトマト)

(2) 特殊報

(11 月 30 日現在)

		①普通作	②果樹類	③野菜類 (花き類含む)
北海道				
	青森 岩手 宮城 福島			5/23：ニンジンのニンジンハネオレバエ 2/6：キュウリの黒点根腐病 (仮称) 1/25：キクのキクわい化病, 9/28：トルコギキョウのえそ輪紋病 4/3：ピーマンのモザイク病, 10/22：トルコギキョウのえそ輪紋, 10/25：プラタナスのプラタナスグンバイ, 11/30：トマトの黄化葉巻病
関東	栃木 群馬			4/26：キクの茎えそ病 6/13：キク・セイタカアワダチソウのアワダチソウグンバイ, 9/4：キクの茎えそ病, 11/21：トマトのすすかび病
	埼玉		8/30：カキのカキノヒメヨコバイ	3/9：ミョウガのクロスジコバネアブラムシ, 7/26：ネギの IYSV による病害, 10/4：キク, アスター, 宿根アスターのアワダチソウグンバイ
	千葉			3/9：イチゴの葉縁退縮病, 3/9：カラーのクリバネアザミウマ, 7/11：トマトの緑かび病, 8/8：キクの茎えそ病, 10/12：コリウスのべと病 (仮称)
	東京 神奈川		4/23：茶のクワシロカイガラムシ 9/18：茶のトビマダラメイガ, 9/28：ナシの炭疽病	1/18：トマトの黄化葉巻病 9/18：アジサイの葉化病
	山梨		6/8：ブドウ, モモ, スモモのフタモンマダラメイガ	9/21：キク等のアワダチソウグンバイ
	長野	6/11：アルファルファのアルファルファタコゾウムシ		11/7：リンドウの黒斑病
北陸	新潟		5/29：ナシ, 西洋ナシのクロフトモンマダラメイガ	
	石川			2/23：トマトのタバココナジラミバイオタイプ Q
東海	岐阜 三重		2/15：茶のミカントゲコナジラミ	8/23：プラタナスのプラタナスグンバイ 3/23：ニンジンのキクノネハネオレバエ, 9/26：プラタナスのプラタナスグンバイ
近畿	大阪 奈良			5/24：コナラのムラクモカレバ 9/3：トマト, ミニトマト, ナスのタバココナジラミバイオタイプ Q
中国四国	鳥取		11/17：イチジクのイチジクヒトリモドキ	10/19：ニンニクのイモグサレセンチュウ
	島根			7/26：キクのアワダチソウグンバイ
	広島		5/28：ウンシュウミカンのツマグロハギカスミカメ	2/9：トマトの退縮萎縮病 (仮称), 5/28：ホウレンソウのアシグロハモグリバエ
	山口 高知	3/10：サツマイモのアワダチソウグンバイ		3/30：トマトの黄化えそ病, 10/16：キク, アスター, ヒマワリのアワダチソウグンバイ 1/30：トマトのすすかび病, 3/14：ナス・ピーマン・キュウリ・トマトのタバココナジラミバイオタイプ Q
九州	佐賀			3/28：トマトのすすかび病, 9/28：キクのアワダチソウグンバイ
	熊本 大分 宮崎 鹿児島		3/9：マンゴーのナンヨウキクイムシ, 6/11：パッションフルーツのクリバネアザミウマ	2/13：トマトのすすかび病, 10/16：キク科のアワダチソウグンバイ 6/29：ニラのえそ条斑病 (仮称), ネギの IYSV による病害, 9/1：トマトのすすかび病 6/19：トルコギキョウのえそ輪紋 3/7：トマトのすすかび病, 6/29：トルコギキョウの黄化えそ病
沖縄				1/17：トマトの黄化葉巻病

3 果樹病害虫

カンキツかいよう病は昨年発生が多かった地域では、越冬病斑が多く、本年の発生にも影響し、7月中旬に福岡県および宮崎県で注意報が発表された。その他では、りんごの腐らん病の注意報が2件、なしの黒星病の注意報が2件、もものせん孔細菌病の注意報が2件、ぶどうのべと病の注意報が1件発表され、適期防除が呼びかけられた。

害虫では、果樹共通の果樹カメムシ類が暖冬の影響で越冬量が多く、園地への飛来量増加が懸念されたが、愛媛県で5月中旬に注意報が発表されたのみであった。その他、りんごのハダニ類、なしのシンクイムシ類およびナシシンクイタマバエの注意報が各1件発表された。

4 野菜および花き病害虫

全国的に発生が多く見られる病害はなく、いちごの炭そ病、たまねぎの白色疫病、なすのすすかび病、ねぎおよびほうれんそうのべと病等について、生産指導上の注意が呼びかけられた。

害虫は、冬期の施設栽培のいちごでハダニ類の発生が全国的に多く見られ、1月から2月にかけて注意報が7件、育苗期に当たる8月下旬以降に4件の注意報が発表された。また、夏期間の気温が高かったことから、野菜類・花き類全般の害虫であるハスモンヨトウの発生が関東以西の広い地域で多く見られ、11件の注意報が発表された。

野菜類・花き類においては、アザミウマ類およびコナジラミ類により伝搬されるウイルス病の発生が近年多く見られる。本年においても、トマトの重要な病害であるトマト黄化葉巻病（病原ウイルス：Tomato yellow leaf curl virus (TYLCV)）が新たに3都県で発生が確認されたことおよび本病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミバイオタイプQも新たに3県で発生が確認された。

これら病害虫の防除対策は、媒介虫が多くの薬剤に抵抗性をもつことから、農薬による防除に加え、健全種苗の使用、罹病株の早期拔取り、雑草の除草、着色粘着板による誘殺、施設開口部への防虫ネットの設置、栽培終了後の蒸込み処理が効果的であり、初期発生を抑えるとともに、これらの防除方法を有効に組み合わせた総合的対策を採ることが重要である。

IV 病害虫防除事業

1 ウリミバエおよびミカンコミバエ

本虫の再侵入を防止するため、奄美群島、沖縄県および小笠原諸島において侵入警戒調査を実施するとともに、沖縄県においてウリミバエの不妊虫放飼、ミカンコ

ミバエの薬剤散布による再侵入防止対策を実施した。

2 アフリカマイマイ

奄美群島、沖縄県および小笠原諸島の被害の著しい野菜圃場などにおいて、マイマイ駆除剤散布による被害軽減防除を実施した。

また、本年発生が確認された鹿児島県出水市および指宿市において、発生調査および防除を実施した。

3 アリモドキゾウムシおよびイモゾウムシ

奄美群島においてアリモドキゾウムシを、沖縄県においてアリモドキゾウムシおよびイモゾウムシを対象にして不妊虫放飼などによる根絶防除を継続して実施している。

また、アリモドキゾウムシの発生が昨年確認された鹿児島県指宿市の2地区において根絶防除を実施し、この内の1地区において本年11月に根絶が確認された。

4 カンキツグリーンング病

本病の根絶を目指して、鹿児島県大島郡喜界町において本年4月から緊急防除を実施した。

また、これと同時に規制区域を新たに北緯27度58分以南に設けるとともに、奄美群島および沖縄県において被害軽減防除を実施した。

V 農林水産航空事業

本年度の農林水産航空事業の農業関係延べ実施面積は、2,646千haとなる見込みである。剤型別では、液剤54千ha、液剤少量28千ha、微量剤5千ha、粒剤9千ha、粒剤少量2千ha、その他（不妊虫）2,611千haとなった。

表-3 平成19年農業年度農業出荷状況（推定）

（単位：t, kt, 百万円, %）

用途		平成18農業年度出荷	平成19農業年度	
			出荷	対前年比
殺虫剤	数量	88,397	78,053	88
	金額	102,569	100,171	98
殺菌剤	数量	49,252	47,290	96
	金額	78,104	81,539	104
殺虫殺菌剤	数量	26,463	22,948	87
	金額	33,215	30,886	93
除草剤	数量	59,734	57,750	97
	金額	98,177	96,765	99
その他	数量	6,714	6,243	93
	金額	12,617	9,998	79
合計	数量	230,560	212,284	92
	金額	324,682	319,359	98

農産安全管理課農業対策室調査（農薬工業会加盟会社対象）。

作物別では、水稻部門は、実施延べ面積 89 千 ha であり、畑作・果樹部門では麦、大豆、栗等の病害虫防除が 8 千 ha であった。畜産部門は、牧野の施肥などが 3 千 ha であった。ミバエ部門はミバエ類の侵入防止対策が行われ、2,610 千 ha であった。

無人ヘリコプターによる病害虫防除は、867 千 ha、対前年を 7% 上回る見込みとなっている。

VI 農薬の出荷状況

平成 19 農薬年度（平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日）における農薬の出荷は、前年度に比べ数量では 8% 減の 212 千 t または kL、金額では 2% 減の 3,194 億円と推定される（表-3）。

新しく登録された農薬（19.11.1～11.30）

掲載は、**種類名**、登録番号：**商品名**（製造者又は輸入者）登録年月日、有効成分：含有量、**対象作物**：対象病害虫：使用時期等。ただし、除草剤・植物成長調整剤については、**適用作物**、**適用雑草**等を記載。（登録番号：22048～22068）下線付きは新規成分。

「殺虫剤」

●チアメトキシサム液剤

22050：アトラック液剤（シンジェンタ ジャパン）
07/11/14

22051：井筒屋アトラック液剤（井筒屋化学）07/11/14

チアメトキシサム：4.0%

さくら：アメリカシロヒトリ：幼虫発生前～幼虫発生期

まつ：マツカレハ：幼虫発生前～幼虫発生期

ヤシ：ヤシオオオサゾウムシ：幼虫発生期

●ジノテフラン・バリダマイシン粉剤

22052：ホクコーバリダスタークル粉剤 DL（北興化学工業）
07/11/14

ジノテフラン：0.35%，バリダマイシン A：0.30%

稲：紋枯病，カメムシ類：収穫 14 日前まで

「殺虫殺菌剤」

●ジノテフラン・ブプロフェジン・トリシクラゾール粉剤

22063：日農ビームアブロードスタークル粉剤 5DL（日本農薬）07/11/28

22064：クミアイビームアブロードスタークル粉剤 5DL（クミアイ化学工業）07/11/28

ジノテフラン：0.35%，ブプロフェジン：1.0%，トリシクラゾール：0.50%

稲：ウンカ類，カメムシ類，いもち病：収穫 14 日前まで

●ジノテフラン・フィプロニル・プロベナゾール粒剤

22065：ビルダープリンススタークル粒剤（明治製菓）
07/11/28

22066：ビルダープリンススタークル粒剤（三井化学）
07/11/28

22067：ホクコービルダープリンススタークル粒剤（北興化学工業）07/11/28

22068：BASF ビルダープリンススタークル粒剤（BASF アグロ）07/11/28

ジノテフラン：2.0%，フィプロニル：1.0%，プロベナゾール：10.0%

稲（箱育苗）：ウンカ類，コブノメイガ，いもち病：移植当日

「殺菌剤」

●メタラキシル M 液剤

22062：サブデューマックス液剤（シンジェンタ ジャパン）

07/11/28

メタラキシル M：22.0%

芝（ベントグラス）：赤焼病，ビシウム病：発病初期

「除草剤」

●アラクロール・リニュロン粒剤

22048：日産ラクサー粒剤（日産化学工業）07/11/14

22049：デュボンラクサー粒剤（デュボン）07/11/14

アラクロール：4.0%，リニュロン：1.04%

だいず：一年生雑草

●アトラジン・メトラクロール水和剤

22056：ゲザノンフロアブル（シンジェンタ ジャパン）
07/11/14

アトラジン：18.4%，メトラクロール：27.6%

とうもろこし：畑地一年生雑草

飼料用とうもろこし：畑地一年生雑草

ソルガム：畑地一年生雑草

うど：畑地一年生雑草

「植物成長調整剤」

●ウニコナゾール P 複合肥料

22057：ダブルショット 20S（日本グリーン＆ガーデン）
07/11/26

ウニコナゾール：0.0020%

水稻：節間短縮による倒伏軽減

22058：ダブルショット 21（日本グリーン＆ガーデン）
07/11/26

ウニコナゾール：0.0040%

水稻：節間短縮による倒伏軽減

22059：ダブルショット 25（日本グリーン＆ガーデン）
07/11/26

ウニコナゾール：0.0040%

水稻：節間短縮による倒伏軽減

22060：コープショートー発 27（コープケミカル）07/11/26

ウニコナゾール：0.0040%

水稻：節間短縮による倒伏軽減

22061：コープショートー発 25（コープケミカル）07/11/26

ウニコナゾール：0.0040%

水稻：節間短縮による倒伏軽減

（22 ページに続く）